
水曜、19時、スターバックス

米内山陽子

登場人物

宮島清香 40代 手話講師

春日優里子 30代 主婦

丸川綾太 20代 会社員

注意

- ㊦は、声と手話で表出する。
- ㊧は手話のみ、声なしで表出する。

1週目

自前のタンブラーを持って、宮島清香が座る。

羽織ものを椅子にかけ、カバンの中からクリアファイル、立てることのできるケースに入ったiPad、ペンケースを取り出し、机を整える。

クリアファイルの中から書類を取りだし眺めるが、眉間に皺が寄る。

カバンの中からメガネケースを出し、その中からメガネを出し、かける。

今度はスラスラ読める。

宮島　このメガネのこと、老眼鏡じゃなくてリーディンググラスって言ってください。わたしたち世代のファッションアイコン、野宮真貴デザインのリーディング・グラスです。時間というのは不可逆で、残酷で、しかしそれに抗える人間は誰もいない。あれ、おかしいな、と気付いたときには、チェックポイントを結構前を通り過ぎていたりして、ちよつと待ってちよつと待ってチェックした覚えがないし、そもそもそこを通る予定はございませんでしたけど、ってなります。なりません？　それがわたしにとつてはリーディンググラスだったり、肘膝踵の乾燥だったり、重力と親密になっていく肉体だったりします。それでも年をとることにとやかく言っても仕方ないし、エイジングの美しさだってあるはずだ、そ

れが評価される国に行きたい、日本じゃダメだ。ロリコンおじさん大国にエイジングの美しさなんて概
念は百年後だって定着しないだろう、どこだ、そうだ、フランスだ。フランス人になりたい。でもなれ
ない。せめて旅行行きたい。でも、そう何度もフランスに飛べるほど懐は温かいわけでないから、今日
も日銭を稼がなければならぬ。わたしがまだ若く美しかった頃に手にした実績と名声の貯金を使って。

宮島は静かにまた書類に目を落とす。

丸川がばたばたと登場。

丸川　こんばんは

宮島　(にっこり)　こんばんは。丸川さん早いですね。

丸川　宮島さんも(カバンを置き)

宮島　わたしはいつもこの時間ですよ。(注文は)　これから？

丸川　あ、さき席取っちゃおうとか思ってたんで、それなんですか？

宮島　本日のコーヒー、だったかな。

丸川　おいしいですか？

宮島　あ、まだ口つけてなかったです。味見します？

丸川　あ、じゃあ一口。

宮島
どうぞ

丸川は宮島のタンブラーを受け取り、口をつける。
その一部始終をじっとみている宮島。

丸川
（顔をしかめて）ブラック

宮島
苦手でした？

丸川
若干、すみません

宮島
こちらこそ。先に言うべきでした

丸川
いやいや、飲めた方がいいとはわかってるんですけど

宮島
（愛想笑い）

丸川
なにか甘いヤツにします。頭使うし。

宮島
どうぞどうぞ。

丸川
（カバンをあさって財布を取り出し）財布。行ってきます

宮島
「ごゆっくり」

丸川
あ、「ゆっくり」はいい。（去ろうとして）なにかいります？ 甘いものとか

宮島
いえいえ

丸川、会釈して去る。

宮島、それを笑顔で見送り、そして笑顔をやめる。

軽快なスタバのBGMが空しく響く。

宮島はタンブラーの口をぬぐい、一口飲む。

宮島 フランス行きたい……

春日がやってくる。

春日 あの……

宮島 はい

春日 フランス行きたいところすみません。ちょっとよろしいですか？

宮島 (怪しんで) はい……

春日 今やられてたのって、あれですか？ 手話

宮島 はい、そうですね

春日 (にわかに興奮して) まじか

宮島 ……

春日 手話できるんですか？

宮島 一応、はい。

春日 すっごくできるんですか？

宮島 うん、まあ、はい

春日 (興奮)

宮島 え、怖い、え、なんですか

春日 あの、いま、あのちょっとお話しできませんか？

宮島 ごめんなさい、連れがいますので。

春日 お連れさん、あ、あの男の子も手話してましたよね!?

宮島 あ、ああ

春日 あの男の子もすっごい手話できるんですか？

宮島 いや、彼はそこまでは

春日 (がっかりして) あ、なんだそうなんだ。ん？ あれ？

宮島 ?

春日 お二人とも耳聞こえますよね？

宮島 そうですね

春日 手話使うことなんてなんかありますか？

宮島 え？

春日 え？ あれ、変なこと聞いてます？

宮島 いや確かに疑問ですよ

春日 内緒話とかですか？ 何か秘密のサインですか？

宮島 特にそういうわけでは

春日 ブレーキランプみたいなやつではなくてですか

宮島 ドリカム……？

春日 ドリカム。あ、同世代、ですかね。

もう座っている春日

宮島 いや、あの、困ったな

春日 え？

丸川戻ってくる。

宮島と春日を見て。

丸川 お知り合い……？

春日 あ、今。

宮島 (春日に) すみませんそろそろ、連れも戻ってききましたので

春日 あ、そっか。あ、でも。(丸川に) 一瞬いいですか？

丸川 あ、まあ、どうぞ

宮島 ええ？

春日 ごめんなさい。わたしもしょっちゅう家出られるわけじゃなくて、今日は旦那が休みだから一時聞くらいお茶してこいよって言うてくれて。子どもまだちっちゃいからすぐ助かっちゃって。でも滅多にあるわけじゃないし。機嫌も良かったし。あのそれで、だから、今がチャンスっていうか、今しかないの、運命だと思うし、だから聞きたいんです。うちの子、今六ヶ月なんですけど、耳が聞こえないの、運命だと思ってる。誰もいないんですよ。うちの親戚見渡しても、旦那の親戚見渡しても、耳聞こえない人いなくて、お医者さんに、あの、人工内耳ってわかりますか？

宮島 え？

春日 ね？ 驚きですよ。誰もいないんですよ。うちの親戚見渡しても、旦那の親戚見渡しても、耳聞こえない人いなくて、お医者さんに、あの、人工内耳ってわかりますか？

宮島 わかります。

丸川 わかりません。

宮島 あー、えーと、簡単に言うと、手術して、機械を頭に埋め込んで聞こえるようにするものっていうか

春日 でも、それ完璧に聞こえるようにならないって言うじゃないですか。それにつけちゃったら外せないし、なんていうんですか、不可逆だなんて思って、まだ意志のわからない子どもにそれつけるの怖くて、断っちゃって、断ったところでどうしようってなって。そしたら手話あるじゃないですか。超見えてたしオレンジデイズとか。だからピンときて。手話つてもものがあるなら、それ覚えたくて、でも区の講習みたいなのに行ったら、なんか変な同情とかされて、おばさまばかりで人間関係怖くて、頭悪いから本見てもDVD見てもわかんなくて、それであるの、

丸川 じゃあ宮島さんに教わったらいいですよ。

宮島 丸川さん

丸川 宮島さん、いいですよ。手話通訳士の資格も持ってるし、手話ニュース出てたし、優しいし。

春日 宮島さんって言うんですか？

宮島 あ、はい、宮島です

春日 春日ですう

丸川 丸川です。今これから僕のレッスンなんですけど、見学していきます？

試し読みしていただけるのはここまでです。

この続きは商品をご購入の上ご覧下さい。

水曜、19時、スターボックス（おためしサンプル）

2020年8月3日 初版発行

著 者 米内山陽子 © 2020年

発行者 石村寛之

発行所 有限会社レトロインク

〒181-0001 東京都三鷹市井の頭4-26-7

電話 0422-24-9529
